天空率申請図作成



東京都新宿区高田馬場 2-14-5 URL http://www.com-sys.co.jp

近接点を自動抽出し、テンプレートに転送する



1) TP-SKY 作業画面、「申請図」から「天空率近接点確認図」を選択します。

2)「天空率近接点確認図設定」ダイアログの「近接点」を押すと、各領域の近接点がダイアログ左の窓にツリー 構造 にて読み込まれます。読み込まれたポイントを選択し、「表示ポイント」を押します。(三斜求積の 画面となり、計算が終了次第再度この画面に戻ります。)

ツリーを展開すると、角ポイントごとに「斜線適合建築物」「計画建築物」に大別され。そのそれぞれに「図 面1」(三斜天空図・近接点位置確認図・位置確認表が格納)、「図面2」(パース図・正面図・左側面図が格納) という構造となっています。また、ツリーの構造は「テンプレート設定」で変更することも可能です。

転送したテンプレートを確認する



- 1) 各ポイントの「図面1」「図面2」を選択し(ツリーの最下層の図面を選択する必要はありません。)、ダイ アログ中の「転送済ファイルを開く」を押します。
- 2) 図面レイアウトモード(テンプレート)へ切り替わり、各種図面がレイアウトされた状態で読み込まれます。 このとき、画面はテンプレート枠表示となっていますが、スペースキーを2回おすことで詳細表示に切り 替わります。(画面左下「詳」でも同様です。)
- 3) 「図面2」を選択した場合はパース・立面図(正面・左側面)が同様にテンプレートとなった状態で読み込まれます。

テンプレートの位置を調整する



- 1) テンプレートの位置を調整したい場合は、「データ訂正 、 と 、 と が よ を 押し、移動したいテンプレート枠をクリッ クし選択します。テンプレート枠が赤色に反転します。
- 2) 「移動: 」を選択し、移動元・移動先の2点をそれぞれクリックすることでテンプレート枠を移動する ことが可能です。

近接点位置確認図・三斜求積図

三斜求積表・近接点座標に罫線を設定する 1



- 1) 三斜求積表を「データ訂正 🔓」で選択します。
- 2)「仮想図面情報修正 「シ」」を選択すると、「外部ファイル配置プロパティ」ダイアログに移行しますので、「割付ファイル編集」を押します。(図面を選択後にマウス右ボタン「個別プロパティ」>「仮想図面情報修正」からでも「外部ファイル配置プロパティ」のダイアログを開くことができます。)
- 3) 「仮想図面編集モード」へ画面が切り替わり、テンプレートを個別に 編集することが可能な状態となります。文字をドラッグにて選択し、 次に「字入力モード 🔽」と「四角入力 🔽」を選択します。
- 3)にて選択した文字全体が入るように、ラバーバンド(青枠)を クリックにて指定します。

元に戻す やり直し	Ctrl+Z Otrl+Y	
毀似引出線入力・編集 疑似寸法線入力・編集 三斜図生成 天空率図面仕上 オブジェクト情報の抽出 プロパティ	Ctrl+L	
個別プロパティ 入力要素選択 編集モード 編集コマンド 選択状態		 文字列及び文字位置の修正 オフスケール円のサイズ修正 仮想図面情報の修正 画像情報の修正
画面再描画 画面拡大 画面縮小 画面移動 印刷範囲移動 画面最適化	Space PageUp PageDown Home Ctrl+Home Ctrl+Space	

4

三斜求積表・近接点座標に罫線を設定する 2



- 1) 「複数文字列登録ダイアログ」が表示されるので、「選択文字列を取り込む」を押します。前項で選択した文 字が窓に取り込まれたことを確認します。
- 2) 「枠線の登録」のチェックボックスにそれぞれチェックを入れ、「OK」ボタンを押します。
- 3) 「ファイル」から「保存して終了」を選択し、次に表示される「二次元データを保存しますか?」に「はい」 を選択します。「外部ファイル配置プロパティ」の表示に戻りますので、そのまま「OK」を押します。
- 4) 図面レイアウトモード(テンプレート)に戻りますので、三斜求積表に罫線が反映されていることを確認し ます。同様の手順で位置確認表に罫線を設定します。

近接点位置確認図・三斜求積図 6

位置確認平面図に寸法を記入する



- 1) 位置確認平面図を「データ訂正」」で選択します。
- 2)「仮想図面情報修正^協↓」を選択すると、「外部ファイル配置プロパティ」ダイアログに移行しますので、「割 付ファイル編集」を押します。(図面を選択後にマウス右ボタン「個別プロパティ」>「仮想図面情報修正」 からでも「外部ファイル配置プロパティ」のダイアログを開くことができます。)
- 3) 「仮想図面編集モード」へ画面が切り替わり、テンプレートを個別に編集することが可能な状態となります。 「疑似寸法線入力モード 「「」」を選択し寸法線ガイド(十字マーク)の中心をドラッグして任意の位置に 移動します。(疑似寸法線入力モード 操作詳細は P14-15で解説)
- 4) 寸法線ガイドの脚部分の小さな丸印をクリックで選択することにより、寸法を配置する方向を決定します。 また、丸印をドラッグすることで配置する寸法線の脚の長さを調整することができます。
- 5) 「終点の吸い付き」にチェックを入れ、寸法を配置する2点間をクリックで順に押さえていきます。寸法 配置が終了したら「ファイル」から「保存して終了」を選択し、次に表示される「二次元データを保存 しますか?」に「はい」を選択します。「外部ファイル配置プロパティ」の表示に戻りますので、そのま ま「OK」を押します。

近接点位置確認図・三斜求積図 7

完成した位置確認平面図(図面1)を保存終了する・保存した図面を呼び出す



- 1) 図面レイアウトモードで「ファイル」ー「上書き保存」を選択します。「Zumen 1. Tdo」という名前で 保存されます。
- 2) 任意で名前をつけて保存することも可能ですが、保存場所を変更することはできません。保存場所は当該の算定ポイントの「図面1」のフォルダ内である必要があります。jww 形式等へのエクスポートについても不可の仕様となっています。
- 3) 保存した図面をあとから再度呼び出したい場合は、「TP-MENU」より当該のプランを選択し、図面レイア ウトを起動します。
- 4) 図面レイアウトモードの「ファイル」-「開く」より、保存したデータを指定します。保存データは「隣地(道路)」>「P○○」>「斜線適合建築物(計画建築物)」>「図面1(図面2)」に保存されています。

近接点位置確認図・三斜求積図 8

パース・立面図を出力する



- 1) TP-SKY より「申請図」-「天空率近接点確認図」を選択します。
- 2) 「天空率近接点確認図設定」ダイアログのツリー部分には既に近接点が読み込まれていることを確認し、「図 面2」を選択、「転送済みファイルを開く」を押します。
- 3) 図面レイアウトモード(テンプレート)へ切り替わり、各種図面がレイアウトされた状態で読み込まれます。 このとき、画面はテンプレート枠表示となっていますが、スペースキーを2回おすことで詳細表示に切り 替わります。(画面左下「詳」でも同様です。)

平面配置図 1

平面配置図を出力する



- 1) TP-SKY より「申請図」-「天空率付図」-「平面配置図」を選択します。
- 2) 領域別に平面配置図が出力されます。敷地とタイトル文字が重なっている場合は、余白部分にドラッグで 青い枠(ラバーバンド)をつくり、画面左下アイコン「計算条件表示位置」を押すことでタイトルを移動 します。
- 3) 同様に、余白部分にドラッグでラバーバンドを作成し、画面左下アイコン「倍率表・面積表位置」を押し ことで「天空率計算結果表」を移動することが可能です。
- 4) マウス右ボタンより「図面レイアウト出力」を行い、図面レイアウトにて寸法線の配置等の作業を行います。
 2)、3)の作業は図面レイアウト上で行うことも可能です。画面右上部の「配置図表示-配置図グループ番号」
 を送ることで次の領域を出力します。

平面配置図 2

図面レイアウトで平面配置図に寸法を記入する



- 高さ制限適合建築物・計画建築物のそれぞれの高さ表記を読みやすい形に加工します。(例では高さ制限 適合建築物の高さ表記は四角で囲んであります。計画建築物高さ表記は頂点ごとではなく、建物ブロック ごととしてあります。)
- 2) 「疑似寸法線入力モード マ平面配置図に寸法を記入します。
- 3)「ペイントモード 解除により色を一時的に抜きます。「データ訂正 こ ごで敷地の裏に配置されて いる「用途地域」「建ペイ率・容積率」表示を順にクリックし選択します。「移動 こ コマンドで敷地 の外側の任意の場所に移動元・移動先をクリックにて指示し、再度ペイントモードをクリックし有効状 態に戻します。
- 4) 保存終了します。平面配置図についてはテンプレートではないため、他形式での保存および任意の場所で の保存が可能です。

全天図一覧表

段組指定で全天図一覧表を出力する



- 1)「申請図」-「天空率付図」から「天空率比較図:を選択します。
- 2) 設定されている用紙サイズに合わせて「列数」「行数」を指定し「OK」を押します。
- 3) 表示ポイントが設定した段組み以上になるときは「天空率比較図ページ設定」ダイアログの「表示ページ 番号」の▲▼でページを送ります。
- 4)「表示」-「表示プロパティ」から「経度線間隔(全天図)(半天図)」「緯度線間隔」をそれぞれ 90 度に設定することで図中の同心円表示を省略することが可能です。また、「多角形近似」のチェックを解除しておくことにより、全天図(円)の描画時間を短くすることができます。

断面図

1

断面図を出力する



- 1) 計算 天空率より画面右側「計画建築物」-「通常建物」のチェックを解除しておきます。(チェック解 除により、以下の操作で出力する断面図を斜線適合建築物のみとすることができます。)再計算を行う必 要はありません。
- 2) 図法 天空率算定チャート図よりポイントを入力・適用し、「断面図」ボタンを押します。
- 3) 「斜線断面計算」ダイアログボックスが表示されるので「OK」を押し、断面図表示へ移行します。
- 4) マウス右ボタン「図面レイアウト出力」より図面レイアウトモードへ移行し、寸法線を記入します。 寸法線を記入した断面図は「ファイル」より「名前を付けて保存」します。

断面図 2

測定ポイントにそれぞれ高低差のある断面図を作成する



- 1) 図法 天空率算定チャート図よりポイントを入力・適用し、ダイアログボックスから「断面図」を選択し、 前項の手順で断面図を完成、保存します。算定ポイントに高低差がある場合は、GL ± 0 レベルおよび算 定ポイントの測定高を基準とした高さをそれぞれ表記します。(例では断面右側に GL ± 0 、左側に測定高 を基準とした高さを記入しています。)
- 2) 作業画面(TP-SKY)へ戻り、「図法」-「天空率算定チャート図」より次のポイントを指定し、断面図を 出力します。
- 3) 「ファイル」-「インポート」より1) で保存した図面レイアウトファイルを読み込みます。インポートした図面レイアウトファイルは選択された状態(赤く反転した状態)で読み込まれます。
- 4) 「移動::---」アイコンを押し、移動元と移動先をそれぞれクリックで指定し、読み込んだ図面を移動します。 配置および寸法線記入が完了したら「ファイル」-「名前を付けて保存」から保存を行います。
- 5) 次のポイントの断面図を図面レイアウト出力し、4)で保存した図面レイアウトファイルをインポートします。

図面レイアウト

疑似寸法線入力モード 1



- 1) 「疑似寸法線入力モード 」を選択すると「寸法線ガイド(十字マーク)」が表示されます。十字のそれ ぞれの脚についている〇印をクリックすることで、寸法を配置する方向を決定します。選択されている 方向の十時部分が赤色となります。十字中心の大きな〇印をドラッグすることで寸法線ガイドを移動す ることができます。通常はガイドの中心が敷地の中心付近に配置しておくとよいでしょう。
- 2) 方向決定の〇印(寸法線ガイドの脚部分)をドラッグすることで、寸法線の脚の位置を決定します。
- 3) 寸法を配置する 2 点間をそれぞれクリックします。「終点の吸い付き」にチェックを入れておくとよいでしょう。

図面レイアウト

疑似寸法線入力モード 2 - 寸法線ガイドの回転 -



- 斜めの部分の寸法線を配置する場合は寸法線ガイドを回転させます。ガイドの中心円を斜めの辺上に合わ せます。ガイド自体に「吸い付き機能」が付いているため、「終点の吸い付き」にチェックを入れておく必 要はありません。
- 2) 方向決定の○印(寸法線ガイドの脚部分)を Shift キーを押しながら斜めの辺上に合わせます。または、「疑 似寸法線入力モード」23 」を再度押すことで「寸法線適用値」ダイアログボックスが開きますので、回転 角度を入力することでガイドを回転することが可能です。(同ダイアログボックスにて印刷時の寸法線の 脚の長さ・円の半径等も変更することができます。)
- 3) 寸法を配置する 2 点間をそれぞれクリックします。「終点の吸い付き」にチェックを入れておくとよいでしょう。

図面レイアウト

疑似引出線入力モード 1



- 1) 「疑似引出線入力モード / ¹²³」を選択します。その後に引出線をつけたい(もしくは変更したい)文字列 をクリックします。
- 2) 選択された文字は赤く反転した状態となり、マウスを移動するとラバーバンド(青色の線)が伸びますので任意の方向・位置でクリックし確定します。文字列の起点より右上;第一象限、左上:第二象限、左下: 第三象限、右下:第四象限、となります。
- 3) 各象限への引出線の出し方は、再度「疑似引出線入力モード¹²²」をクリックすると表示される「引出線 適用値」ダイアログボックスで設定することが可能です。(このダイアログボックスでの設定については 保存することができません。)